平成29年度　第２回がん教育協議会　概要

日　時：平成30年２月21日（水）　14時00分～16時00分

場　所：横浜情報文化センター７階　大会議室

出席委員：

中川恵一（東京大学医学部附属病院放射線科准教授）、

片山佳代子（神奈川県立がんセンター臨床研究所　主任研究員）

助友裕子（日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科　教授）

緒方真子（神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」世話人代表）

石井貴士（公益社団法人神奈川県医師会　理事）

大髙幸二（神奈川県中学校体育連盟会研究部会　会長）

濵野むつみ（神奈川県学校保健連合会養護教諭部会　部会長）

八尋　有造（神奈川県県民局次世代育成部私学振興課長）

　※代理：内藤哲也（同課　指導主事）

宮村進一（神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長）

佐々木つぐ巳（神奈川県保健福祉局保健医療部がん・疾病対策課長）

大塚和弘（神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課長）

概　要：

１　開会

　○　北海道テレビより、取材及び撮影の旨説明あり。

２　議題

　(1)　平成29年度神奈川県がん教育の取組みについて

ア　文部科学省がんの教育総合支援事業について

|  |  |
| --- | --- |
| 中川座長 | 　小田原市医師会に伺った際、がん教育について医師会があまり承知していないような様子が見てとれた。東京都などは、拠点病院ではなく医師会と外部講師を調整する方向としている。また、拠点病院から講師が派遣できない場合も想定されるので、保健福祉部局と医師会間での調整も行うべきである。 |
| 石井委員 | 　学校医も外部講師として想定されているので、協力できるところは協力したい。ただ、医師会も、日本医師会、県医師会、郡市医師会の３層構造になっているので連携が難しいが、校医は郡市医師会で県下20程度の学校医部会で決めるので、郡市医師会の協力が不可欠。　　今のところ、県医師会に担当がいる訳ではないので、県に旗振り役をしていただければと思う。配慮が必要な生徒に対しても、授業を行う際、学校医に一声かけていただければ、フォローアップもできるかと思う。 |
| 中川座長 | 　医師会との調整などは、保健福祉局を中心に行ってほしい。県医師会にも、石井委員や笹生理事を中心に動いていただけると嬉しい。 |
| 中川座長 | 　今年度は学年単位での実施とのことであったが、教育委員会の方針として、学校の先生による授業はクラス単位、外部講師の場合は学年（または学校全体）として考えているのか。 |
| 宮村委員 | 　教育委員会等で一律に定めるのは難しいのでは。一番効率的なやり方で、各学校で組み立てるのが現実的。 |
| 保健体育課 | 　今年度は学校の希望を尊重した。実施するクラスを抜き出すと教育課程上の評価のバラツキが生じてしまう、という声や、せっかく来ていただくのだから多くの生徒に聞いてほしい、という声が多かった。科目も含め、対象をどうするかは、学校の考え方によるものと考えている。 |
| 助友委員 | 　外部講師は６校だが、事前学習の時間を設けたのか。 |
| 保健体育課 | 　事前学習として保健体育の授業を１時間実施した。中学校での実施の場合、本来は中学３年生の教育課程だが、中学１年生を対象とした学校では、教育課程を先取りして実施した。　授業の実施にあたり、国の示している多くのガイドラインが学校現場まで行き届いておらず、苦慮した。生徒への配慮等含め、このあたりを周知するよう伝えていきたい。 |
| 中川座長 | 　学校現場への「がん教育」の周知ということで、今回取材の入っている北海道テレビの番組放送をDVDにコピーする等して学校に配布してはどうか。 |
| 北海道テレビ | 　二次利用をしていただけるように製作しているので、積極的に活用していただければと思う。 |
| 保健体育課 | 　各学校分をコピーして配布という点については、予算の都合もあるので少し検討させていただく。 |
| 内藤委員 | 　がん教育の実施校について、平成28年度から平成29年度にかけて一見すると減ったように感じるが、今回新たなものに挑戦するということで、後ろ向きな数字ではなく、対象を厳選したものと捉えている。 |
| 保健体育課 | 　そのとおり。今回は新たな試みをするということで、そちらに注力をした。 |
| 片山委員 | 　今後の課題であるが、医療者などは子どもたちに教えるということを普段していない。知っていることと、がん教育として教えるべきことはイコールではないので、県としては、病院等にお任せするのではなく、どんな方でも講師ができるよう均てん化のための方策を検討すべき。 |
| 緒方委員 | 　今年度実際の授業で経験談を話すことになったが、打合せ等での指示が何もなかった。「がん患者の体験談」として話す内容等の事前チェックも誰にも行ってもらえず、不安があった。がん教育の趣旨や、どんなことを話すべきかなどのマニュアルがあるとよい。 |
| 中川座長 | 　国のマニュアルもあるが、県版のガイドラインを作るというのも手だと思う。検討してほしい。 |
| 助友委員 | 　学校での導入にあたっては、モデル授業だけでなく、現場での啓発も大切。保健体育の教師の意識改革や、研究活動としてがんを取り上げていただく等の活動が活発になっていけばと思う。 |
| 大高委員 | 　現場としては、生活習慣病の中でもキャリア、食育などさまざまな課題がある中で、がん教育の時間を捻出して、がん教育単体で行うというのはとても大変。外部講師として、クラス単位でやるとなると、クラス単位で４時間～５時間かけなくてはならず負担。というと、学年単位とせざるを得ないという状況。教科書の中で「がん教育」を組み込み、必要性を示してもらえないとなかなか時間が捻出できない。 |
| 中川座長 | 　教科書については、本格実施までに載ってくる。現場のそうした声も当初の本協議会の議論でもあがってきた。既に実施は決まっているのだから、その中でどうしていくかが大切。 |
| 宮村委員 | 　各学校でカリキュラムのマネジメントをしていくが、協議会として、モデルを示すとよいかもしれない。 |

イ　神奈川県がん教育の取組み経過について

ウ　平成29年度神奈川県におけるがん教育の取組み概要について

　エ　がん教育教材について

|  |  |
| --- | --- |
| 濱野委員 | 　病気の理解については中学校以降、小学校は予防といのちの大切さを伝えるのがよいのではないか。小学校向けに、道徳の授業で使える読み物教材があるとよい。　 |
| 中川座長 | 　文科省の小学生向けの資料では、読み物教材がある。国の資料などについても、神奈川県のパワーポイントに加える形でも大丈夫なように設計している。ぜひ現場でご活用をいただきたい。DVDでこれらの注意事項を改めて周知するのは、よいと思う。 |
| 助友委員 | 　マニュアルの周知だけでなく、外部講師のモデル校について、講師の紹介や実施までのプロセスを可視化する必要がある。授業は担任が持つが、先生は忙しく、外部講師との接点を持ちづらいので、養護教諭に間に入ってもらう等も工夫が必要。教員研修で学校医も知識の普及啓発ができるよう、工夫をしていくことも必要では。 |

３　その他（県がん対策推進計画案）

|  |  |
| --- | --- |
| 内藤委員 | 　計画本文に「小・中・高・中等教育・義務教育学校」とあるが、特別支援学校がないのはなぜか。　 |
| 中川座長 | 　パブリックコメント等で出せればよいが、一度、確認していただき、必要に応じて計画に反映させるようにしてほしい。　 |

以上